

学年	教科等	題材名	日時
第1学年	図画工作科	ふみふみ マット	平成30年2月2日(金) 2・3校時
本実践の主張	質感を中心とした造形的な見方・考え方が働くようにするために、様々な材料の踏んだ感触を味わいながら、家族が喜ぶ「ふみふみマット」をつくることをとおして、材料を踏んだ感触の違いに気付いたり、踏んだ感触を工夫したりする「ふみふみマット」という題材を開発しました。本時では、様々な材料の踏んだ感触の違いに気付くことができる場の設定をしたり、言葉かけをしたりすることで、踏んだ感触を試しながら、家族が喜ぶ「ふみふみマット」をつくることができました。		

## 造形的な見方・考え方を働かせるための手立て

目をつぶって踏んだ感触を確かめさせる

先生の家のソファの下にしているマットは、どっちだと思う？ 目をつぶって、踏んで当ててみてごらん。



すべすべしているからこっちかな？ もっと、別のものも踏んでみたいな。



踏んだ感触を確かめたくなる場を設定する



材料を踏みやすく、踏み比べしやすいように放射状に配置する。

家の中に見立てた家具を設置して、日常の場面を想起させる。



造形活動はしているが、踏んだ感触を意識できていない子どもに、踏んだ感触に気付かせる言葉かけをする。

お母さんを喜ばせたいな。かわいい見た目にしよう。



踏むと「ふわふわ」した感触だね。どうして、この材料をならべたの？



足の裏をマッサージするには、こっちの材料を使った方がいいかな？



お母さんの疲れも吹き飛ばす、「ちくちく」「むにむに」の気持ちいい踏み心地になったよ。



## 表現を探求し続ける意欲を高める教師の働きかけ

イメージと踏んだ感触を往復しながら工夫している姿を取り上げて称賛する。

単身赴任しているお父さんが温かくなるようなマットをつくっています。



なんて優しい！そんなこだわり温かマットをもらうお父さんは幸せ者だね。

わたしも、踏んだ感触を工夫して、お母さんが喜ぶような、踏み心地のよいマットをつくるぞ！

つくり、つくりかえる姿を取り上げて称賛する。



前に「はこざるん」をつかったときに、Aさんは、何度も何度もつくりかえていて、先生、すごいなと思いました。

以前の題材で見られた姿で価値付ける。



今日はB君が、一度つくったものを壊して、別の材料でつくりかえていてすごいなと思いました。

本時で見られた姿を称賛する。

早く完成し、満足感を得て造形活動への意欲が低下した子どもへ言葉かけをする。



この「ぼこぼこ」したところが先生好きだな。Cさんと同じように、「ぼこぼこ」した踏み心地の友達はいるかな。

そういえばD君は私みたいに「ぼこぼこ」にしてたかな？ 見てよう。

もう一枚つくってもいいって言ったら、今度はどうしたい？

やった！ 今度は、お父さんに喜んでもらうために「さらさら」感触のマットつくりたい！



### 授業をふりかえって

- 子どもが造形遊びをしながら踏んだ感触の違いに気付くことが出来るような場を工夫したことで、子どもは踏んだ感触から多様な発想をすることができていた。
- 最後まで表現を探求し続ける意欲を継続できない子どもがいた。子どもに応じた場の設定の在り方や声掛けについて研究を深めていく必要がある。

御意見・御質問はこちら(研究部アドレス)

miyafuken@cc.miyazaki-u.ac.jp

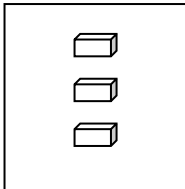
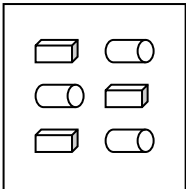
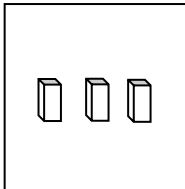
○ 指導計画（4時間）

(1) 踏んだ感触を確かめながら、つくりたいマットをつくる。	2時間（本時）
(2) 材料を接着し、家族へのメッセージを添える。	2時間

○ 本時の目標

- 踏んだ感触を基に、つくりたい「ふみふみマット」を思い付くことができる。
- 踏んだときの感触を試しながら、材料を選択したり、置き方を工夫したりすることができる。

○ 指導過程

学習活動及び学習内容	教師のかかわり
<p>1 ふみふみマンになって踏んだ感触を楽しむ。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ マット当てクイズ                     <ul style="list-style-type: none"> <li>・バスマット ・泥落としマット 等</li> </ul> </li> <li>○ 様々な材料の踏んだ感触の体験                     <ul style="list-style-type: none"> <li>・スポンジ ・気泡緩衝材 ・消しゴム 等</li> </ul> </li> </ul> <p>2 本時の学習について話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 踏んだときの感触                     <ul style="list-style-type: none"> <li>・ふわふわ ・ざらざら</li> <li>・ちくちく ・硬い 等</li> </ul> </li> <li>○ 本時のめあて                     <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">かぞくが よろこぶ、ふみふみマットをつくらう。</div> </li> <li>○ 表現を探求する姿</li> <li>○ 時間・場・用具</li> </ul> <p>3 「ふみふみマット」をつくる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 踏んだ感触を意識した材料の選択                     <ul style="list-style-type: none"> <li>・スポンジ ・気泡緩衝材 ・消しゴム 等</li> </ul> </li> <li>○ 踏んだ感触を意識した材料の置き方                     <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: flex-end; margin-top: 10px;"> <div style="text-align: center;">  <p>一列に並べる</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>交互に並べる</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>立てる など</p> </div> </div> </li> <li>○ つくりたいイメージ                     <ul style="list-style-type: none"> <li>・お父さんに疲れをとってもらいたいから、足つぽマッサージマット</li> <li>・お母さんに台所で気持ちよくなって欲しいから、足元あったかマット 等</li> </ul> </li> </ul> <p>5 本時の学習をふりかえる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 「ふみふみマット」を踏んだ感触と工夫</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 目をつぶって踏ませることで、家庭用マットの踏んだ感触の違いに気付くことができるようにする。</li> <li>○ 踏み比べがしやすいように材料を放射状に配置して、踏んだ感触の比較がしやすくすることで、踏んだ感触の違いに気付くことができるようにする。</li> <li>○ 踏んだ感触を言葉にして話し合わせることで、材料によって踏んだ感触が違うことに気付くことができるようにする。</li> <li>○ 「気持ちいい。」等の子どもの言葉の後に「家族のみんなが喜ぶマットって、どんなマットかな。」と問うことで、踏んだ感触と子どもの思いを結び付けることができるようにする。</li> <li>○ 以前の題材で見られた表現を探求し続けている具体的な姿を紹介し、称賛することで、踏んだ感触と家庭で使うときのイメージを往復しながら表現を探求し続ける意欲を高めることができるようにする。</li> <li>○ 材料を並べることに夢中になりすぎて踏んだ感触を意識できていない子どもへは、次のような言葉かけをすることにより、踏んだ感触を意識しながら表現を工夫することができるようにする。                     <ul style="list-style-type: none"> <li>・「どうしてこの材料を並べたの。」</li> <li>・「どんなマットができそう。」</li> </ul> </li> <li>○ どんなマットをつくれればよいか発想できない子どもには、教師と一緒に材料を踏んだり、家族の写真を見ながら話し合ったりすることで、つくりたいマットのイメージをもつことができるようにする。</li> <li>○ 家庭内に見立てた場をつくることにより、実際にマットを使用する様子を想定しながら、踏んだ感触を試すことができるようにする。</li> <li>○ 早く完成し、満足感を得て造形活動への意欲が低下した子どもへは、次の手立てを講じることで、表現を探求する意欲を高められるようにする。                     <ul style="list-style-type: none"> <li>・自分の作品と似ている作品をつくっている仲間はいないかどうか見て回らせる。</li> <li>・目的を変えた次の作品に取り組みさせる。</li> </ul> </li> <li>○ つくり始めの頃の写真を準備し、現在の作品と比較することで、踏んだ感触を生かした工夫についてふりかえることができるようにする。</li> </ul>

○ 学びの本質に向かっている子どもの姿

消しゴムを踏んでいたらむにむにした感じが気持ちよかったから、お父さんに疲れをとってもらおうマッサージマットをつくってみようと思ったよ。 【発想や構想の能力】  
 仲間の作品を見ていたら、材料を一列に並べている作品を見つけたよ。ぼくは、今よりもっと気持ちよい感触にするために、消しゴムを立てて一列に並べたよ。 【創造的な技能】

